# 繪事比肩

福

七十四

題繪事比肩

畫人哉石燕東都無畫人者斯焉取斯乃歲石燕圖畫和漢人物搜述索偶寫起累百釐爲三卷名曰繪事比肩山水花鳥繼之上梓云而其所比舉者皆就史籍考據焉率非誣誕慌惚之事石燕偶來告余曰願乞一言

雲山

繪事比肩 壹

以付剞劂余乃開卷細玩則衆形萬態每紙改觀中國與皇和氣類相接左右相敵詩曰猗重較兮可以爲喻矣余雖未嘗學畫圖之事粗陳其狀巧笑倩兮美目盼兮赳赳武夫威而可畏峩峩髦士儀而可象被髮有焉剃髮有焉精可以凝眞可以棲如是之類對坐雙立殊容國人神交冥契宛如共遊一塗同會一堂也噫嘻千里而比肩信不虛矣豈其頰上益三毛而已哉豈其飛白拂瞳子而已哉傳神之妙正在阿堵之中古不云乎雖小道必有可觀者焉石燕與石燕也板刻既成流傳寖廣想使覽者

手披心寄又何快也

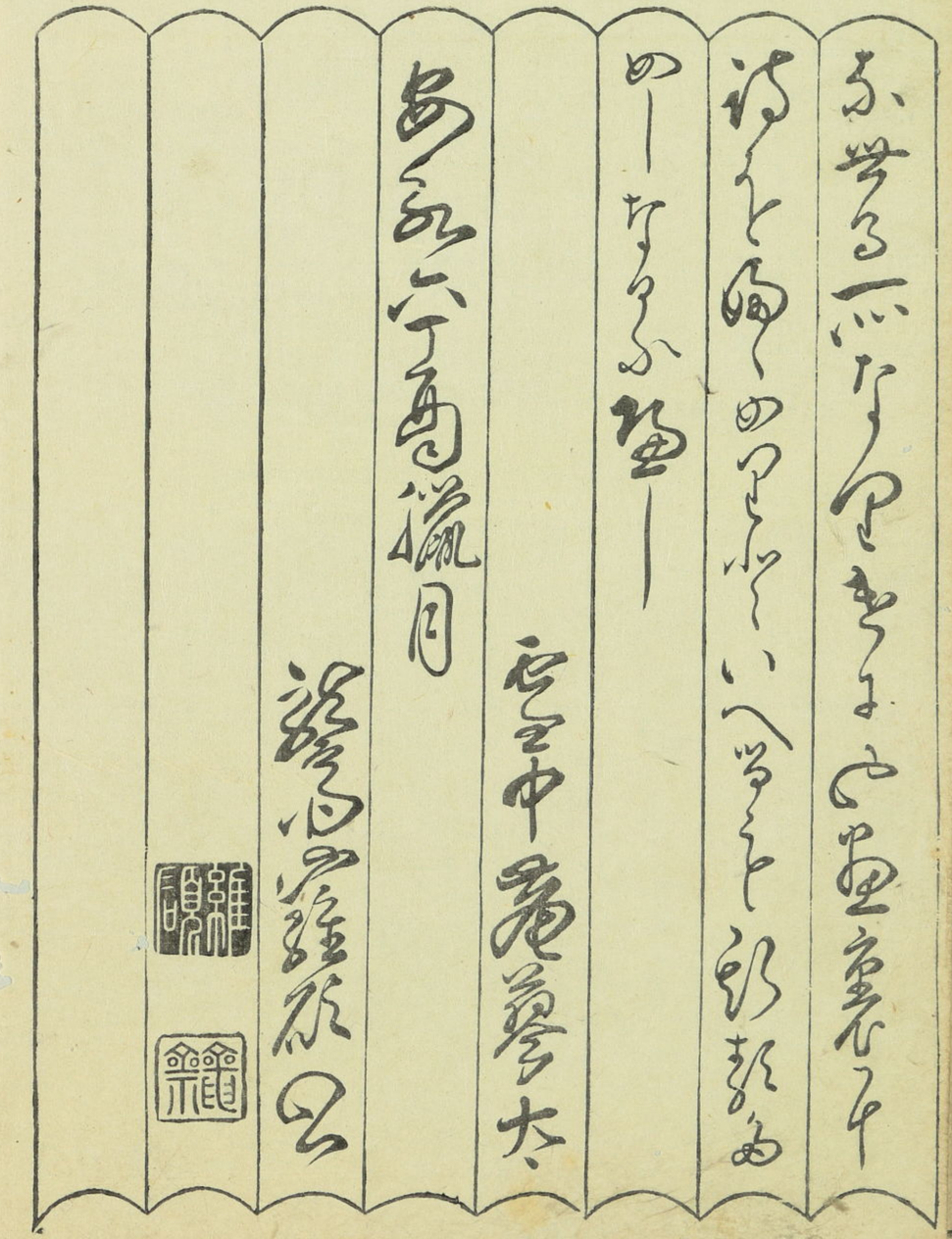
安永六年丁酉十二月

芸閣　千葉玄之撰

雲夢　小澤安親書

序

高小屋子法眉所をこまちを
寛とふ年明之明を参和漢
見聞為小春遊帰中に乗り
独心風を生しを中所ふハ古乃
書を感一勇ちをよ法こひ
あふ参人をかたひ恒士城
ちふをハ不子の明をふ学力の



# 繪事比肩巻之上

○帝舜　○西王母　○西施　○張良　○利休

○仁徳皇　○玉津嶋　○小町　○業平　○陸鴻漸

帝舜

史記ニ曰舜五絃の琴を
弾じ南風の詩を歌ひのみ
ならず其意ハ南風吹て世を
あたゝかにし萬物に緑を
生じ花咲色美育する
ごとく萬民をゆたかにし
五穀をこのませ太平を
治免しきと云事

仁德天皇

此時世の中太平
にして五穀ゆたかに
一日天皇高樓に
少くも民家をとぶ
みたまふ
高きをのぼりて
煙たつ民の竈ハ
みぎりにも
みるなり

西王母

列子曰周の穆王崑崙山よりのぼりて西王母を逢ひ瑶池の上に湯宴せと又七月七日青鳥飛来りて西王母漢乃武帝乃別殿に下り仙人の道を授けよ

## 玉津島

日本紀曰應神天皇の孫忍坂大中姫の妹允恭天皇の嬪なり容姿世に比なく艶々たる衣を徹く光りあり附乃人衣通姫と云

我せこの来つきを待ちのさつらへの
くもの乃ふるまいかよひ
とをらめ

## 西施

西の方より家居し姓ハ施ゆへ西施といつり越の国より薪を採しに女ちり越王句踐是を呉王に献ぜ呉王是を日夜あいしく国を滅せり色欲ハ法べしむ

小野小町

小野の良実の女なり仁明天皇承和乃比の人なり相坂あて死せるとなり

あふ坂乃関の清みづ新月へて
今やいくらん望月の駒

張良

字は子房面美女のごとく前漢の高祖のもとに計をもつて天下を定めしとも下邳圯上の黄石公乃履をとりて兵法の書を授けしより黄を吹く

楚の大軍を散ずとなり

業平

體貌閑麗天下
の美男なり
深秘抄よいく
業平幼名曼陀
羅丸志雅俗正
ヨ従ひ密法を
學びしゆへ詠歌
多く志言乃
密旨ヨ叶ふと云
元慶四年五月
廿八日卒セ
歳百五十ヨ有り

陸鴻漸

唐の世の人なり茶経を作り煎茶点茶の法茶具二十四事を製し都統籠を按じ遠近を傾慕せり

一叶と名あり

叡寺の僧と於く千と号く氏と号く千仞岳と改め羅漢同朋の役を名を生ず室町家よりへ名ハ宗易泉州堺の人千利休

上八九

妙君亨蔵

倉龍軒書